

『学校図書館ネットワークを どう構築するか』

大阪府立東淀川高等学校教諭 西田 治

日時：平成18年8月9日（水）

会場：郡山

大阪府学校情報ネットワーク

大阪府教育委員会の事業

大阪府教育センター「学校情報ネットワーク」のページ

<http://www.osaka-c.ed.jp/kak/jyohou/jyoho/osakanet.htm>

平成12年度・13年度

府教育センターと府立学校の専用回線による接続と学校内ネットワークを構築した。

平成17年度・18年度

大阪府学校情報ネットワークを更新を行った。

学校図書館にネットワーク接続のパソコンを整備し、学校図書館を学習情報センターとして位置づけた。また、進路指導室と教育用LAN教室、学校図書館のパソコンを接続し、学校の教育情報の共有と活用を推進した。

ネットワーク化に大阪府高等学校図書館研究会がどのように関わったか

情報システム研究委員会

発足 昭和63年12月（1988年）

中間報告（約1年後）

最終報告 平成2年（1990年）

検討項目

高図研・府SLAのコンピュータに対する認識を高める。

コンピュータに関する情報を収集し、整理して会員に流す。

学校図書館のコンピュータ利用を研究

コンピュータ導入による合理化問題

学校図書館を中心とした情報システム

コンピュータ導入の理念

事務処理が合理化された図書館

カウンター業務の簡素化・利用者の負担減。

多様な目録や統計が正確に早くできる。

蔵書管理・点検が容易になる。

受け入れ・発注業務が楽になる。

教育に寄与する専門的業務のできる学校図書館

利用者の多様なニーズにこたえられる。

利用者が興味を持って図書館を利用できるようなレファレンスができる。

教科活動に必要な資料の作成あるいは用意ができる。

他校並びに他館とのネットワークを通して資料交換ができる。

「学校図書館のコンピュータ化について」での最終報告

『図書館研究』第26号 大阪府高等学校図書館研究会 1990年

『学校図書館へのコンピュータ導入』 全国学校図書館協議会 1990年

個々に資料の管理・検索を目的としたいわゆる<図書館システム>の導入は、現状では不必要。

コンピュータと積極的な関わりを持つことは必要。(コンピュータリテラシー)

しかるべき時期に府下一斉の共通システムを導入望ましい。

システム化は、各学校の実態に応じて可塑性のあるもので、かつネットワーク化によって図書館相互の活用が図れること。

ローカルデータ以外の書誌データは、信頼性の高いMARCを用いて、データの共通化と入力省力化を図るものとする。

大阪情報教育研究協議会

平成2年7月9日 第1回総会

府立高等学校の各教育研究会や教育センター、研究所、私立学校、企業等がそのワ
クを超えて連携をはかり、情報教育の研究実践をすすめる。

企画運営委員として当初より西田が参加

平成3年3月5日 第3回総会

情報交換として、大阪府高等学校図書館研究会が発表。

情報システム委員会の活動報告

最終報告について

学校図書館蔵書管理システム

「最終報告」以降10年間、教育委員会に訴えてきたことが認められ、図書館を学校内の情報の中心と位置づける「学校情報ネットワーク」と、それに付随する事業として「学校図書館蔵書管理システム」が整備された。

平成12年7月 府教委が「学校図書館蔵書管理システム」を整備するという方向性を打ち出す。

平成12年11月 大阪府教育委員会と第一電子の共同開発に研究会が協力するプロジェクト・チームを立ち上げる。

平成13年3月 「学校図書館蔵書管理システム」が完成し、学校図書館職員に対して、府教委主催のソフトウェアの講習会が行われる。

「学校図書館蔵書管理システム」の完成を受け、動作の確認作業を「情報システム研究委員会」が中心に行う。

サポート体制の確立

「マニュアル」の整備・サポート窓口・WEB

「研究指定校」によるデータ構築研究

「学校情報ネットワーク活用推進連絡会」

学校情報ネットワーク活用推進プロジェクト・チーム

「図書館蔵書管理ソフト」の改善要請

平成16年7月 更新ともなって、図書館蔵書管理ソフトを改善するよう、要請をおこなった

入力システム

現行のMARCを使って統一したデータをダウンロードできること

検索システム

府立高校間のWEBによる相互検索が可能で、学習に役立つ検索システム

貸し出し・返却システム

バーコード対応であること

管理システム

蔵書点検等が合理的・省力的にできること

今回の更新で、「学校図書館蔵書管理システム」も、おおむね改善要請にそって更新された。